

授業科目	C 言語 II				単位／時間	108時間
開講学科等	システム工学科 2 年				担当教員	森下 浩二
授業の目的・テーマ	C 言語の基本的な文法・記述方法を理解する。 ポインタ、構造体、ファイルの入出力を中心に、C 言語の基本を習得する。					
授業の到達目標	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 2 級 (6/29 受験) の合格を目標とする。					
授業の計画	1	2h	ポインタ	26	3h	2 級対策問題
	2	4h	ポインタ	27	2h	2 級対策問題
	3	3h	ポインタ	28	4h	2 級対策問題
	4	2h	練習問題	29	3h	プログラミング実習 (基本)
	5	4h	数学関数、文字列操作関数	30	3h	プログラミング実習 (基本)
	6	3h	練習問題	31	2h	プログラミング実習 (基本)
	7	3h	構造体と共用体	32	4h	プログラミング実習 (基本)
	8	2h	構造体と共用体	33	3h	プログラミング実習 (基本)
	9	4h	練習問題	34	3h	プログラミング実習 (基本)
	10	3h	記憶域クラス	35	2h	プログラミング実習 (基本)
	11	3h	練習問題	36	4h	プログラミング実習 (基本)
	12	2h	ファイル入出力	37		
	13	4h	ファイル入出力	38		
	14	3h	練習問題	39		
	15	3h	2 級対策問題	40		
	16	2h	2 級対策問題	41		
	17	4h	2 級対策問題	42		
	18	3h	2 級対策問題	43		
	19	2h	2 級対策問題	44		
	20	4h	2 級対策問題	45		
	21	3h	2 級対策問題	46		
	22	3h	2 級対策問題	47		
	23	2h	2 級対策問題	48		
	24	4h	2 級対策問題	49		
	25	3h	2 級対策問題	50		
授業の方法	講義及び対策問題の実施と解説					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート C プログラミング (ウィネット)					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 検定結果					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目	C 言語 II				単位／時間	63時間
開講学科等	システム工学科 2 年				担当教員	森下 浩二
授業の目的 ・テーマ	C 言語の基本的な文法および開発ツールの使い方を習得する。					
授業の 到達目標	C 言語の基本的な文法等を理解して、基本的なプログラムを作成できることを目標とする。					
授 業 の 計 画	1	2h	プログラミング実習（応用）	26	2h	演習課題
	2	2h	プログラミング実習（応用）	27	2h	演習課題
	3	3h	プログラミング実習（応用）	28	3h	演習課題
	4	2h	プログラミング実習（応用）	29		
	5	2h	プログラミング実習（応用）	30		
	6	2h	プログラミング実習（応用）	31		
	7	3h	プログラミング実習（応用）	32		
	8	2h	プログラミング実習（応用）	33		
	9	2h	プログラミング実習（応用）	34		
	10	3h	プログラミング実習（応用）	35		
	11	2h	プログラミング実習（応用）	36		
	12	2h	プログラミング実習（応用）	37		
	13	2h	プログラミング実習（応用）	38		
	14	3h	プログラミング実習（応用）	39		
	15	2h	演習課題	40		
	16	2h	演習課題	41		
	17	2h	演習課題	42		
	18	3h	演習課題	43		
	19	2h	演習課題	44		
	20	2h	演習課題	45		
	21	2h	演習課題	46		
	22	2h	演習課題	47		
	23	2h	演習課題	48		
	24	3h	演習課題	49		
	25	2h	演習課題	50		
授業の方法	講義及び実習					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート C 言語実習問題集（ウィネット）					
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の 活かし方						
履修上の 注意事項	講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目		システム設計		単位／時間		80時間	
開講学科等		システム工学科2年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		前期は主に座学で設計手法や実際の現場で使用されているツールなどを学ぶ 後期は実習を通して、外部設計について学ぶ					
授業の到達目標		設計の手法について理解する					
授業の計画	1	2h	議事録の取り方	26			
	2	2h	ライセンス	27			
	3	2h	環境構築について	28			
	4	2h	バージョン管理ツール	29			
	5	6h	ブレインストーミングとKJ法	30			
	6	12h	レゴスクラム	31			
	7	2h	マインドマップ	32			
	8	2h	開発言語とフレームワーク	33			
	9	2h	テスト	34			
	10	2h	環境構築	35			
	11	4h	WBSとガントチャート	36			
	12	42h	外部設計（進捗により追加仕様を出す）	37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		前期（座学・実習）、後期（実習）					
テキスト		自作資料					
参考文献		なし					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		SEとしてシステム開発の経験を有する					
実務経験の活かし方		どのような場面で必要になる手法かを説明する					
履修上の注意事項		設計では文章力も必要になるので、人に読ませる文章を書くように心がける					

授業科目	システム設計	単位／時間	20時間
開講学科等	システム工学科 2 年	担当教員	伊井 洋平
授業の目的 ・テーマ	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。		
授業の 到達目標	ソフトウェア開発において、品質目標を定め、適切なソフトウェアテストを計画し実施することができる。		
授 業 の 計 画	1	IT業界や開発プロジェクト	26
	2	ソフトウェアテストについて	27
	3	テストの実行体験【Before】	28
	4	テスト体験の振り返り（改善策を検討）	29
	5	品質とは何か#1	30
	6	品質とは何か#2	31
	7	品質基準	32
	8	テストプロセス	33
	9	テストケース…正確に情報伝達するには	34
	10	テストの観点	35
	11	テスト技法…同値分割法	36
	12	テスト技法…境界値分析法	37
	13	テスト技法…組み合わせテスト#1	38
	14	テスト技法…組み合わせテスト#2	39
	15	テスト技法…パターン表の作成#1	40
	16	テスト技法…パターン表の作成#2	41
	17	テストの実行体験【After】	42
	18	テスト体験の振り返り（成果を確認）	43
	19	総合的な復習	44
	20	前期試験（理解度確認試験）	45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	演習主体で進める（内容説明→個人演習→グループ演習→フィードバック）		
テキスト	ソフトウェアテストの基礎		
参考文献	無し		
評価の方法 や基準	出席率、授業課題、前期試験 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	各種システムの開発とテスト、およびそのプロセス改善を主導した経験を持つ。		
実務経験の 活かし方	上記の実務経験を活かして、ソフトウェアテストに関する実践的な教育を行う。		
履修上の 注意事項	演習を多く取り入れ、且つ会話形式で進行するため、積極的な参加をお願いします。		

授業科目		ネットワーク		単位／時間		45時間	
開講学科等		システム工学科2年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		開発の現場で利用されるLinuxサーバー環境を構築する					
授業の到達目標		システムの運用で必要となるサーバー環境の構築を体験する					
授 業 の 計 画	1	1h	Linux概要	26			
	2	3h	基本コマンド	27			
	3	3h	テキストエディタ (Vim)	28			
	4	1h	ファイアウォール (UFW)	29			
	5	1h	DNSサーバー構築 (BIND9)	30			
	6	1h	Webサーバー構築 (Apache2)	31			
	7	12h	HTML演習	32			
	8	2h	ローカルPCへのLinux系OSインストール (VirtualBox)	33			
	9	1h	SMBサーバー構築 (Samba)	34			
	10	1h	メールサーバー構築 (Postfix, Dovecot)	35			
	11	1h	PHP実行環境構築 (Apacheモジュール)	36			
	12	18h	PHP演習	37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		実習を中心に行う					
テキスト		自作資料					
参考文献		無し					
評価の方法 や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する 1.出席率 2.授業態度 3.成果物					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							○
実務経験		SEとしてシステム開発時のサーバー操作の経験を有する					
実務経験の 活かし方		実務でよく使われる環境やソフトウェアを重点的に解説する					
履修上の 注意事項		特別な指示がない限り、指示する手順どおり進めること					

授業科目	データベースⅡ			単位／時間	38時間	
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	川村 剛久	
授業の目的 ・テーマ	データベースの基本的なテーブル設計を身に付ける。					
授業の 到達目標	1年時に学習している内容も復習しながら行い、データベースの基本的なテーブル設計やE-R図を理解し、自身でテーブル設計及びE-R図を作成できるようになる。					
授業 の 計 画	1	2h	関数従属について	26		
	2	2h	テーブルの正規化（第1正規化）	27		
	3	2h	テーブルの正規化（第2正規化）	28		
	4	2h	テーブルの正規化（第3正規化）	29		
	5	2h	参照制約について	30		
	6	2h	E-R図について	31		
	7	2h	テーブル設計書について	32		
	8	2h	テーブル設計書演習	33		
	9	2h	正規化演習①	34		
	10	2h	正規化演習②	35		
	11	1h	非正規化について	36		
	12	1h	導出項目の取り扱いについて	37		
	13	1h	スーパータイプとサブタイプについて①	38		
	14	1h	サブタイプの切り出し方	39		
	15	2h	演習問題①	40		
	16	2h	演習問題②	41		
	17	2h	演習問題③	42		
	18	2h	演習問題④	43		
	19	2h	演習問題⑤	44		
	20	2h	演習問題⑥	45		
	21	2h	演習問題⑦	46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義・演習を中心に行う。					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理教科書データベーススペシャリスト・データベーススペシャリスト試験過去問題					
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	コンピュータ業界・自治体関連システムや財務会計システムの開発等の経験を有する。					
実務経験の 活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。 また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。					
履修上の 注意事項	復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること。					

授業科目	パソコン概論			単位／時間	12時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	植田 祥平
授業の目的・テーマ	コンピュータを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解する。				
授業の到達目標	コンピュータの性能調査や、Windowsパソコンの自作等ができるレベルを目標とする。				
授業の計画	1	1h	パソコンを構成するパーツ・CPUについて①	26	
	2	2h	CPUについて②	27	
	3	2h	マザーボードについて	28	
	4	2h	メモリについて	29	
	5	1h	HDD/SSDについて	30	
	6	1h	光学ドライブ等について	31	
	7	1h	ビデオカード、ケース等について	32	
	8	2h	期末テスト	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	部分的に自作資料				
参考文献	intel 及び Microsoft 等のホームページ など				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	運用・保守業務経験をもとにPCに必要なパーツやその役割を解説する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るように心がけること。				

授業科目		国家試験対策Ⅱ(応用情報 春期 マネジメント)		単位／時間		26時間	
開講学科等		システム工学科 2 年		担当教員		中川 隆	
授業の目的・テーマ		応用情報技術者試験にて出題されるマネジメントの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。					
授業の到達目標		応用情報技術者試験合格を目標とする。					
授業の計画	1	2h	システム監査概要解説	26			
	2	6h	練習問題（午前問題）	27			
	3	6h	練習問題（プロジェクトマネジメント）	28			
	4	6h	練習問題（ＩＴサービスマネジメント）	29			
	5	6h	練習問題（監査）	30			
	6			31			
	7			32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義・練習問題実施及び解説					
テキスト		応用情報技術者合格教本【技術評論社】					
参考文献		応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		理解を深めるために復習を行うこと。					

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 春期 ストラテジ)			単位／時間	22時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるストラテジの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	キャッシュフロー・財務指標	26	
	2	6h	練習問題（午前問題）	27	
	3	15h	練習問題（経営戦略）	28	
	4			29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ（応用情報 春期 コンピュータシステム・アーキテクチャ）			単位／時間	37時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるコンピュータシステム・アーキテクチャの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	練習問題実施・解説 4	29	
	5	2h	練習問題実施・解説 5	30	
	6	2h	練習問題実施・解説 6	31	
	7	2h	練習問題実施・解説 7	32	
	8	2h	練習問題実施・解説 8	33	
	9	2h	過去問題実施・解説 1	34	
	10	3h	過去問題実施・解説 2	35	
	11	3h	過去問題実施・解説 3	36	
	12	3h	過去問題実施・解説 4	37	
	13	3h	過去問題実施・解説 5	38	
	14	3h	過去問題実施・解説 6	39	
	15	2h	過去問題実施・解説 7	40	
	16	2h	過去問題実施・解説 8	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 春期 情報システム開発)			単位／時間	24時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	川久保 あゆみ
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される情報システム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	過去問題実施・解説 1	26	
	2	3h	過去問題実施・解説 2	27	
	3	3h	過去問題実施・解説 3	28	
	4	3h	過去問題実施・解説 4	29	
	5	3h	過去問題実施・解説 5	30	
	6	3h	過去問題実施・解説 6	31	
	7	3h	過去問題実施・解説 7	32	
	8	3h	過去問題実施・解説 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 春期 組込みシステム開発)			単位／時間	15時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される組込みシステム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	専門用語解説	26	
	2	2h	過去問題実施・解説 1	27	
	3	2h	過去問題実施・解説 2	28	
	4	2h	過去問題実施・解説 3	29	
	5	2h	過去問題実施・解説 4	30	
	6	2h	過去問題実施・解説 5	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 6	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 春期 データベース)			単位／時間	30時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	川村 剛久
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるデータベースの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	データベースの基礎	26	
	2	2h	正規化（復習）、非正規化	27	
	3	2h	関係データベースの演算	28	
	4	2h	SELECT文（復習）	29	
	5	2h	CREATE TABLE文	30	
	6	1h	ビューの定義、トリガ	31	
	7	2h	オブジェクトの処理権限	32	
	8	2h	トランザクション制御	33	
	9	2h	DBMSの障害回復管理	34	
	10	2h	分散データベース	35	
	11	2h	データウェアハウス、データマイニング	36	
	12	2h	応用情報過去問題・解説 1	37	
	13	2h	応用情報過去問題・解説 2	38	
	14	2h	応用情報過去問題・解説 3	39	
	15	2h	応用情報過去問題・解説 4	40	
	16	2h	応用情報過去問題・解説 5	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験過去問問題 情報処理教科書データベーススペシャリスト他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 春期 アルゴリズム)			単位／時間	40時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	中川 隆
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	配列処理(文字列) 1	29	
	5	2h	配列処理(文字列) 2	30	
	6	3h	データ構造 1	31	
	7	3h	データ構造 2	32	
	8	2h	データ構造 3	33	
	9	3h	木構造 1	34	
	10	3h	木構造 2	35	
	11	1h	木構造 3	36	
	12	1h	探索処理	37	
	13	2h	ハッシュ法 1	38	
	14	2h	ハッシュ法 2	39	
	15	2h	整列処理 1	40	
	16	2h	応用整列処理 1	41	
	17	2h	応用整列処理 2	42	
	18	2h	応用整列処理 3	43	
	19	2h	応用整列処理 4	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 春期 ネットワーク・情報セキュリティ)			単位／時間	37時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるネットワーク・情報セキュリティの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IPプロトコルスイート	26	
	2	2h	L3SW・ルーティング IP	27	
	3	3h	LAN (IEEE802) L2SW・MAC	28	
	4	2h	HTTP DNS HDCP	29	
	5	2h	SMTP POP IMAP	30	
	6	2h	暗号化 (AES RSA)	31	
	7	2h	デジタル署名 (TLS) PKI	32	
	8	3h	認証方式	33	
	9	3h	ウイルス対策・攻撃手法の種類と対策	34	
	10	2h	本試験過去問題実施・解説 1	35	
	11	2h	本試験過去問題実施・解説 2	36	
	12	2h	本試験過去問題実施・解説 3	37	
	13	2h	本試験過去問題実施・解説 4	38	
	14	2h	本試験過去問題実施・解説 5	39	
	15	2h	本試験過去問題実施・解説 6	40	
	16	2h	本試験過去問題実施・解説 7	41	
	17	2h	本試験過去問題実施・解説 8	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 春期 模擬試験)			単位／時間	28時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	川村 剛久
授業の目的 ・テーマ	応用情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の 到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授 業 の 計 画	1	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の 活かし方					
履修上の 注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ（基本情報 春期 情報セキュリティ）			単位／時間	29時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	3h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	3h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10	3h	練習問題実施・解説 6	35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(基本情報 春期 アルゴリズム)			単位／時間	65時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	森下 浩二
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	4h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	3h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20	3h	練習問題実施・解説 10	45	
	21	3h	練習問題実施・解説 11	46	
	22	3h	練習問題実施・解説 12	47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅣアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(基本情報 春期 オブジェクト指向)			単位／時間	20時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	内藤 正勝
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17	1h	練習問題実施・解説 11	42	
	18	1h	練習問題実施・解説 12	43	
	19	1h	練習問題実施・解説 13	44	
	20	1h	練習問題実施・解説 14	45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅤ プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(基本情報 春期 模擬試験)			単位／時間	24時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	川村 剛久
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 秋期 マネジメント)			単位／時間	24時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	中川 隆
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるマネジメントの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	システム監査概要解説	26	
	2	6h	練習問題（午前問題）	27	
	3	6h	練習問題（プロジェクトマネジメント）	28	
	4	6h	練習問題（ITサービスマネジメント）	29	
	5	4h	練習問題（監査）	30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 秋期 ストラテジ)			単位／時間	20時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるストラテジの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	キャッシュフロー・財務指標	26	
	2	6h	練習問題（午前問題）	27	
	3	13h	練習問題（経営戦略）	28	
	4			29	
	5			30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ（応用情報 秋期 コンビュタシステム・アーキテクチャ）			単位／時間	38時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるコンピュータシステム・アーキテクチャの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	練習問題実施・解説 4	29	
	5	2h	練習問題実施・解説 5	30	
	6	2h	練習問題実施・解説 6	31	
	7	2h	練習問題実施・解説 7	32	
	8	2h	練習問題実施・解説 8	33	
	9	3h	過去問題実施・解説 1	34	
	10	3h	過去問題実施・解説 2	35	
	11	3h	過去問題実施・解説 3	36	
	12	3h	過去問題実施・解説 4	37	
	13	3h	過去問題実施・解説 5	38	
	14	3h	過去問題実施・解説 6	39	
	15	2h	過去問題実施・解説 7	40	
	16	2h	過去問題実施・解説 8	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目		国家試験対策Ⅱ (応用情報 秋期 情報システム開発)		単位／時間		22時間	
開講学科等		システム工学科 2 年		担当教員		川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ		応用情報技術者試験にて出題される情報システム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。					
授業の到達目標		応用情報技術者試験合格を目標とする。					
授業の計画	1	3h	過去問題実施・解説 1	26			
	2	3h	過去問題実施・解説 2	27			
	3	3h	過去問題実施・解説 3	28			
	4	3h	過去問題実施・解説 4	29			
	5	3h	過去問題実施・解説 5	30			
	6	3h	過去問題実施・解説 6	31			
	7	2h	過去問題実施・解説 7	32			
	8	2h	過去問題実施・解説 8	33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義・練習問題実施及び解説					
テキスト		応用情報技術者合格教本【技術評論社】					
参考文献		応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		理解を深めるために復習を行うこと。					

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 秋期 組込みシステム開発)			単位／時間	15時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	橋本 貴之
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題される組込みシステム開発の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	専門用語解説	26	
	2	2h	過去問題実施・解説 1	27	
	3	2h	過去問題実施・解説 2	28	
	4	2h	過去問題実施・解説 3	29	
	5	2h	過去問題実施・解説 4	30	
	6	2h	過去問題実施・解説 5	31	
	7	2h	過去問題実施・解説 6	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 秋期 データベース)			単位／時間	37時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	川村 剛久
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるデータベースの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	データベースの基礎	26	
	2	2h	正規化（復習）、非正規化	27	
	3	2h	関係データベースの演算	28	
	4	2h	SELECT文（復習）	29	
	5	2h	CREATE TABLE文	30	
	6	2h	ビューの定義、トリガ	31	
	7	2h	オブジェクトの処理権限	32	
	8	2h	トランザクション制御	33	
	9	2h	DBMSの障害回復管理	34	
	10	2h	分散データベース	35	
	11	2h	データウェアハウス、データマイニング	36	
	12	3h	応用情報過去問題・解説 1	37	
	13	3h	応用情報過去問題・解説 2	38	
	14	3h	応用情報過去問題・解説 3	39	
	15	3h	応用情報過去問題・解説 4	40	
	16	3h	応用情報過去問題・解説 5	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験過去問問題 情報処理教科書データベーススペシャリスト他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 秋期 アルゴリズム)			単位／時間	44時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	中川 隆
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	練習問題実施・解説 1	26	
	2	2h	練習問題実施・解説 2	27	
	3	2h	練習問題実施・解説 3	28	
	4	2h	配列処理(文字列) 1	29	
	5	2h	配列処理(文字列) 2	30	
	6	4h	データ構造 1	31	
	7	4h	データ構造 2	32	
	8	2h	データ構造 3	33	
	9	4h	木構造 1	34	
	10	4h	木構造 2	35	
	11	1h	木構造 3	36	
	12	1h	探索処理	37	
	13	2h	ハッシュ法 1	38	
	14	2h	ハッシュ法 2	39	
	15	2h	整列処理 1	40	
	16	2h	応用整列処理 1	41	
	17	2h	応用整列処理 2	42	
	18	2h	応用整列処理 3	43	
	19	2h	応用整列処理 4	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ (応用情報 秋期 ネットワーク・情報セキュリティ)			単位／時間	37時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	応用情報技術者試験にて出題されるネットワーク・情報セキュリティの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IPプロトコルスイート	26	
	2	2h	L3SW・ルーティング IP	27	
	3	3h	LAN (IEEE802) L2SW・MAC	28	
	4	2h	HTTP DNS HDCP	29	
	5	2h	SMTP POP IMAP	30	
	6	2h	暗号化 (AES RSA)	31	
	7	2h	デジタル署名 (TLS) PKI	32	
	8	3h	認証方式	33	
	9	3h	ウイルス対策・攻撃手法の種類と対策	34	
	10	2h	本試験過去問題実施・解説 1	35	
	11	2h	本試験過去問題実施・解説 2	36	
	12	2h	本試験過去問題実施・解説 3	37	
	13	2h	本試験過去問題実施・解説 4	38	
	14	2h	本試験過去問題実施・解説 5	39	
	15	2h	本試験過去問題実施・解説 6	40	
	16	2h	本試験過去問題実施・解説 7	41	
	17	2h	本試験過去問題実施・解説 8	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	応用情報技術者合格教本【技術評論社】				
参考文献	応用情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(応用情報 秋期 模擬試験)			単位／時間	35時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	川村 剛久
授業の目的 ・テーマ	応用情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の 到達目標	応用情報技術者試験合格を目標とする。				
授業 の 計 画	1	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	7h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の 活かし方					
履修上の 注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ（基本情報 秋期 情報セキュリティ）			単位／時間	45時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	3h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	2h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10	3h	練習問題実施・解説 6	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 7	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 8	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 9	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 10	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 11	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 12	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅱ(基本情報 秋期 アルゴリズム)			単位／時間	96時間
開講学科等	システム工学科 2 年			担当教員	森下 浩二
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	3h 練習問題実施・解説 16
	2	4h	整列処理	27	3h 練習問題実施・解説 17
	3	4h	文字列操作処理	28	3h 練習問題実施・解説 18
	4	2h	データ構造 1	29	3h 練習問題実施・解説 19
	5	3h	データ構造 2	30	3h 練習問題実施・解説 20
	6	3h	データ構造 3	31	3h 練習問題実施・解説 21
	7	3h	ハッシュ法	32	3h 練習問題実施・解説 22
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20	3h	練習問題実施・解説 10	45	
	21	3h	練習問題実施・解説 11	46	
	22	3h	練習問題実施・解説 12	47	
	23	3h	練習問題実施・解説 13	48	
	24	3h	練習問題実施・解説 14	49	
	25	3h	練習問題実施・解説 15	50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅣアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目		国家試験対策Ⅱ (基本情報 秋期 オブジェクト指向)		単位／時間		32時間	
開講学科等		システム工学科 2 年		担当教員		内藤 正勝	
授業の目的・テーマ		基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。					
授業の到達目標		基本情報技術者試験合格を目標とする。					
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	1h	練習問題実施・解説 20	
	2	1h	プログラミングの基本	27	1h	練習問題実施・解説 21	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	1h	練習問題実施・解説 22	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	1h	練習問題実施・解説 23	
	5	1h	データ構造の表現	30	1h	練習問題実施・解説 24	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	1h	練習問題実施・解説 25	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	1h	練習問題実施・解説 26	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33			
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34			
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35			
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36			
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37			
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38			
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39			
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40			
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41			
	17	1h	練習問題実施・解説 11	42			
	18	1h	練習問題実施・解説 12	43			
	19	1h	練習問題実施・解説 13	44			
	20	1h	練習問題実施・解説 14	45			
	21	1h	練習問題実施・解説 15	46			
	22	1h	練習問題実施・解説 16	47			
	23	1h	練習問題実施・解説 17	48			
	24	1h	練習問題実施・解説 18	49			
	25	1h	練習問題実施・解説 19	50			
授業の方法		講義・練習問題実施及び解説					
テキスト		なし					
参考文献		基本情報技術者試験対策テキストⅤ プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		理解を深めるために復習を行うこと。					

授業科目	国家試験対策Ⅱ(基本情報 秋期 模擬試験)			単位／時間	24時間
開講学科等	システム工学科2年			担当教員	川村 剛久
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目		ビジネス実務Ⅱ（担任）		単位／時間		30時間	
開講学科等		システム工学科2年		担当教員		濱渦 昇	
授業の目的・テーマ		働くこと、生きることについての「考え方」「思い」を醸成させる。					
授業の到達目標		自己分析をし、自分がこれからどうなりたいかを考えることができる。					
授業の計画	1	4h	インターンシップについて	26			
	2	2h	マッチングセミナーの説明	27			
	3	2h	マッチングセミナー参加企業の説明	28			
	4	2h	マッチングセミナーフィードバック	29			
	5	2h	インターンシップに向けての準備	30			
	6	18h	就職に向け、自己PR、志望動機を考える	31			
	7			32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義					
テキスト		無し					
参考文献		企業HP など					
評価の方法や基準		授業態度、出席率 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		自分の将来について真剣に考える。					

授業科目		ビジネス実務Ⅱ（マナー等）				単位／時間			6時間			
開講学科等		システム工学科2年				担当教員			田中 佳代			
授業の目的・テーマ		・就職研修に向けた立ち居振る舞いを練習するとともに、印象に残る人とはどういう人かを考える ・就職試験の本番で、どういう自分でありたいのか、目指す人間像について考える										
授業の到達目標		・就職研修にて、身だしなみ/マナーの評価において全員がオール5取得を目標とする ・「できる」思考法を学び、グループワークで考え、ハキハキ受け答えができることを目標とする										
授業の計画	1	10/20	1h	オリエンテーション、目標設定（ビジ実） 挨拶	26							
	2	10/27	1h	就職研修に向けて・入室/思考法ワーク	27							
	3	11/10	1h	就職研修に向けて・退室/思考法ワーク	28							
	4	11/17	1h	就職研修に向けて・全体/思考法ワーク	29							
	5	1/19	1h	教養P129-132、日本文化ワークショップ 思考法ワーク	30							
	6	1/26	1h	教養・思考法ワーク/後期試験 目標評価	31							
	7				32							
	8				33							
	9				34							
	10				35							
	11				36							
	12				37							
	13				38							
	14				39							
	15				40							
	16				41							
	17				42							
	18				43							
	19				44							
	20				45							
	21				46							
	22				47							
	23				48							
	24				49							
	25				50							
授業の方法		レクチャー・ロールプレイング・グループワーク										
テキスト		日本マナー・プロトコル協会 マナー・プロトコル基礎知識										
参考文献		ウィネット 実践ビジネスマナー / 「デキる人の思考法」 KADOKAWA										
評価の方法や基準		出席率・授業態度・身だしなみ・プリント管理、提出物・テスト類 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する										
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する										○		
実務経験		国際線機内におけるお客様対応、予備校校舎長として生徒指導、職業訓練校において受付・電話応対および生徒の面接指導を担当										
実務経験の活かし方		実体験を交えて説明する										
履修上の注意事項		できなかったことや失敗は隠したり胡麻化したりせず、自身の成長へのツールと捉え、前進することに利用してほしい。										

授業科目	ビジネス実務Ⅱ（Ｂ検）				単位／時間	16時間	
開講学科等	システム工学科２年				担当教員	岩松 美穂	
授業の目的・テーマ	ビジネスの常識及び基礎的なコミュニケーション、情報の利活用などを身につけ、社会人としての意識付けを行う。						
授業の到達目標	ビジネス能力検定ジョブパス３級全員合格を目標とする。（検定日：12月7日）						
授業の計画	1	2h	10/23	ビジネス能力検定ジョブパス取得の目的と意義 演習問題①ビジネスとコミュニケーションの基本	26		
	2	2h	10/30	演習問題②仕事の実践とビジネスツール	27		
	3	2h	11/6	令和３年度過去問題	28		
	4	2h	11/13	令和４年度過去問題	29		
	5	2h	11/20	令和５年度過去問題	30		
	6	2h	11/27	令和６年度過去問題	31		
	7	2h	1/22	ビジネスマナーの基本①	32		
	8	2h	1/29	ビジネスマナーの基本②	33		
	9				34		
	10				35		
	11				36		
	12				37		
	13				38		
	14				39		
	15				40		
	16				41		
	17				42		
	18				43		
	19				44		
	20				45		
	21				46		
	22				47		
	23				48		
	24				49		
	25				50		
授業の方法	講義、演習、実習						
テキスト	ビジネス能力検定ジョブパス３級公式試験問題集						
参考文献	ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト、実践ビジネスマナー						
評価の方法や基準	授業態度、演習・過去問点数、検定結果、出席率						
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項	身だしなみや言葉遣い等、学んだ事を実践できるよう心掛ける。						

授業科目	ビジネス実務Ⅱ（就職研修）			単位／時間	28時間
開講学科等	システム工学科1年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	学生の就職に対する意識を高め、意欲をかき立てる。 入社試験形式での個人面接・集団面接練習及び筆記・作文模擬試験を行い、学生が希望する企業の入社試験に対する準備を行う。				
授業の到達目標	希望する業界・職種・企業の就職試験に自信を持って挑めるようにする。				
授業の計画	1	3h	先輩の就職活動（講話）・質疑応答	26	
	2	4h	文字（履歴書）の書き方	27	
	3	3h	個人面接①練習、筆記・作文模擬試験	28	
	4	3h	個人面接① フィードバック	29	
	5	2h	個人面接②練習、筆記模擬試験	30	
	6	3h	集団面接練習、作文模擬試験	31	
	7	6h	個人面接②、集団面接 フィードバック	32	
	8	4h	合同就職セミナー参加	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	練習（演習）、フィードバック（講義）、セミナー参加				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業への取り組み状況 ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自分の将来に直結する科目であるため、真剣に受講すること。				

授業科目		社会問題		単位／時間		14時間	
開講学科等		システム工学科 2 年		担当教員		濱渦 昇	
授業の目的 ・テーマ		社会人として必要な社会問題の知識を習得させる					
授業の 到達目標		以下のスキルを身に付けさせる ・社会問題に対して内容を把握することができる。 ・社会問題に対して自身の持っている情報と考えを相手に正確に伝えることができる。					
授 業 の 計 画	1	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	26			
	2	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	27			
	3	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	28			
	4	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	29			
	5	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	30			
	6	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	31			
	7	2h	問題把握・分析・資料作成 (テーマは授業時の社会問題とする)	32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義、演習（課題作成）					
テキスト		なし					
参考文献		なし					
評価の方法 や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 授業内課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の 活かし方							
履修上の 注意事項		授業内で課題を行い、理解度を確認していく。					

授業科目		一般常識		単位／時間		42時間	
開講学科等		システム工学科2年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		就職試験に備えて、主にSPI3の非言語対策を行い、計算問題を習得する					
授業の到達目標		就職試験（筆記試験）合格					
授業の計画	1	2h	損益算	26			
	2	2h	料金算①	27			
	3	2h	料金算②	28			
	4	2h	仕事算①	29			
	5	2h	仕事算②	30			
	6	2h	速度算①	31			
	7	2h	速度算②	32			
	8	2h	濃度算①	33			
	9	2h	濃度算②	34			
	10	5h	復習	35			
	11	1h	前期試験	36			
	12	2h	順列、組合せ、確率①	37			
	13	2h	順列、組合せ、確率②	38			
	14	2h	数列、集合①	39			
	15	2h	数列、集合②	40			
	16	2h	推論、命題①	41			
	17	2h	推論、命題②	42			
	18	2h	図形	43			
	19	3h	復習	44			
	20	1h	後期試験	45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義、答案練習					
テキスト		無し					
参考文献		SPI3、公務員試験教養問題など					
評価の方法や基準		以下の内容を追加に評価し、総合的に判断する 1.出席率 2.授業態度 3.期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		配布するプリントから期末試験を作成するので、紛失しないように保管しておくこと					